

Quam-goa-suma's flair

クアム ゴア スマのキラメキ



鹿児島初の外資系シティホテルとして開業した、シェラトン鹿児島。

海外文化交流の南の玄関口であり、海とのかかわりの中で形づけられたこの地の「フレア」を捉えること。移ろう四季が見せる儂さや刹那の美。あるいは桜島のように、当たり前が存在するが故に、日常の生活では見えない普遍的な美。時は16世紀後半、冒険家・ジョルジ・アルバレスがヨーロッパ人として初めてこの地を訪れ、Quam goa suma と名付けた時の驚きと発見を、シェラトンの視点で切り取り再現することを試みました。

物件名

シェラトン鹿児島

開業

2023年5月

事業主

南国殖産株式会社

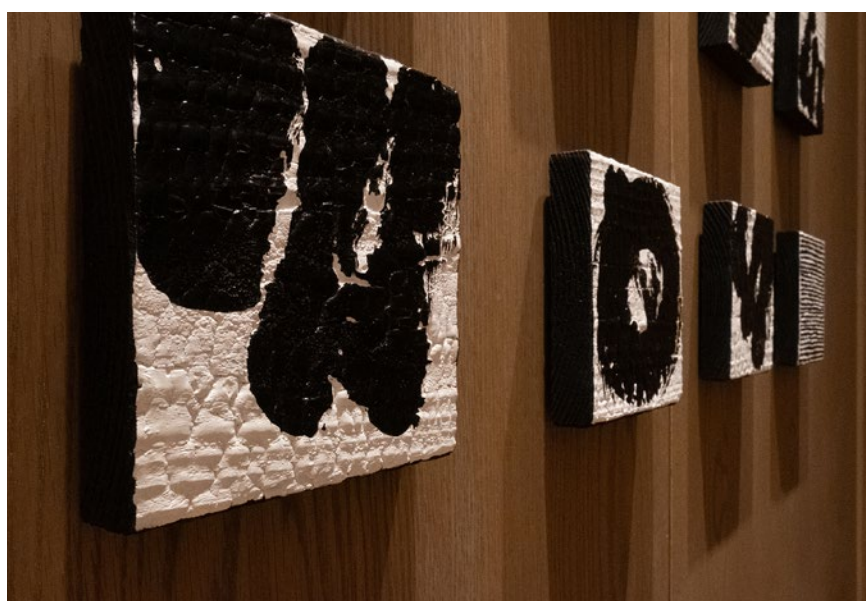
インテリア設計

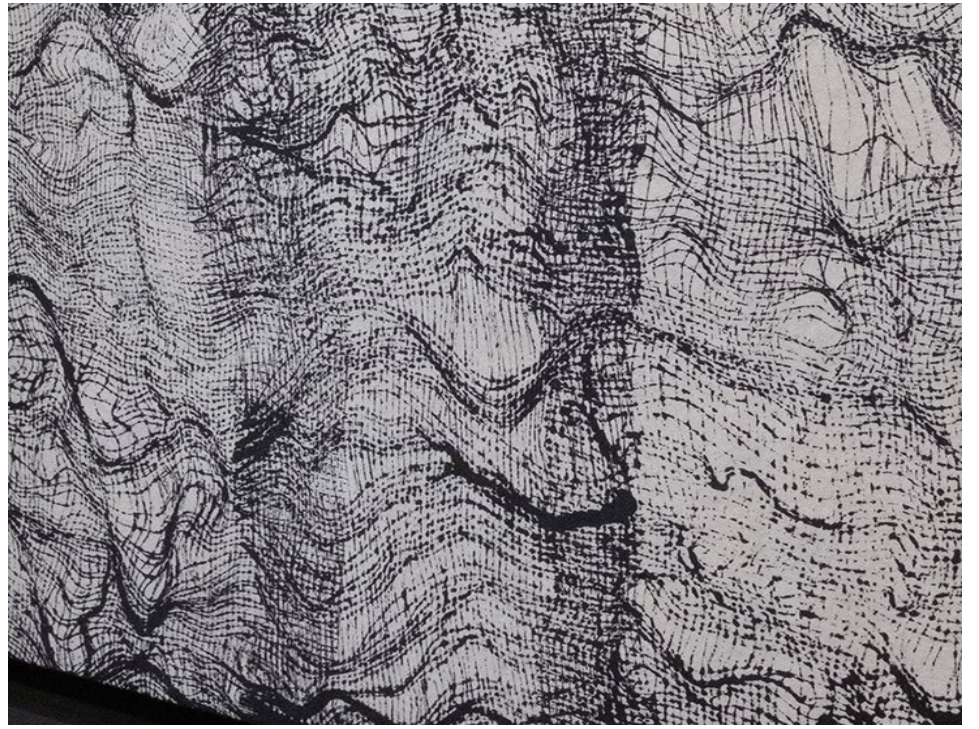
Public: CRÈME / Jun Aizaki Architecture & Design

Guestroom: 株式会社メック・デザイン・インターナショナル

L1: Lobby & Lounge

フロントデスクの隣に位置するカフェ「& More」鹿児島を代表する薩摩切子と薩摩焼の一種である黒もんを、素材の対比で紹介しています。ワークスペースのディスプレイは、ポルトガルからの舶来品と一緒に、鹿児島の伝統工芸にヒネリを加え、香箱・薩摩焼・芭蕉布・屋久杉等を織り交ぜながら、この地の歴史・フレアを紹介しています。





海の水平線から霧島の山並み・シラス台地・そして桜島の火山灰。この地の雄大な自然を柔らかな線で繋いでいます。素材に荒目の織物を使用し、高度な施工技術によって横幅 15m、縦 8.7m に渡る壁画が実現しました。



L2: Ballroom & Meeting rooms

伝統工芸から現代美術まで、この地にゆかりのあるアーティストによる作品が並びます。空間の要となるエレベーターホール作品は、鹿児島島の火山灰をシルクスクリーンのように何層にも重ね、錦江湾に映る桜島の情景を描いたもの。ミーティングルームには、伝統工芸である蒲生和紙を厚く成形し、水面に見立てた作品を制作しました。



Bridal rooms



L4: All Day Dining

中央に位置する横幅8mにわたる壁画は、南九州のアーティストによる「16世紀から幕末・そして現代に脈々と流れるこの地のエネルギー」をリズムカルに描いたもの。空間全体に散りばめられた飾り棚には、黒酢畑に使用される壺のミニチュアを取り入れ、鹿児島ならではの美しい風景・この地の自然に根付いた食文化を紹介しています。



L5: Spa

鹿児島育ちの和紙デザイナーによる、雨と水面に見立てた作品。空間にホワイトノイズを加え、柔らかな空間を演出しています。



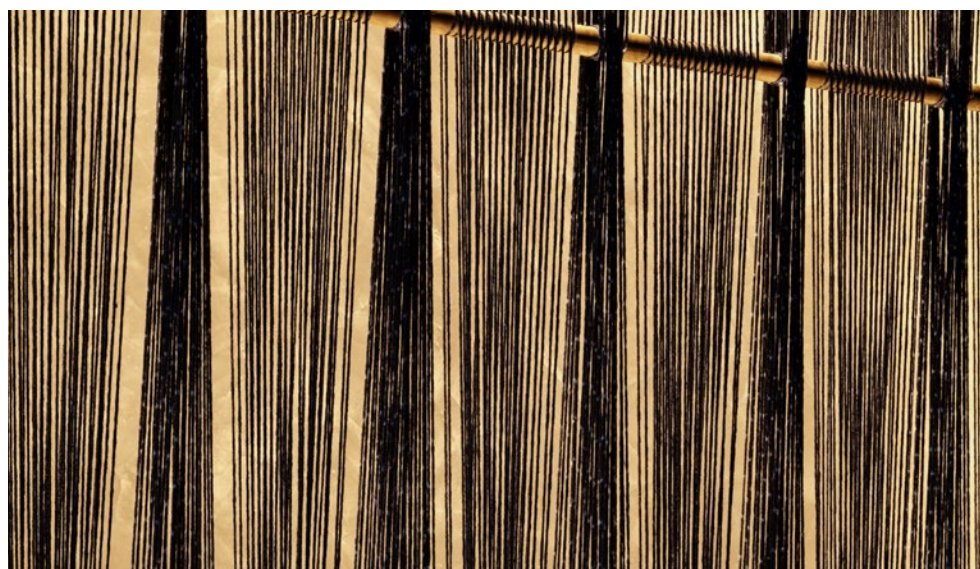
L18: Club Lounge

横幅 6m になる、青と赤の対比が印象的な作品は、1300 年前から奄美大島に伝わる伝統的な染め技法・泥染めによるもの。この技法は、島内に自生しているシャリンバイから「赤」を、天然藍から「青」を煮出し、泥に含まれる鉄分との化学反応によって染色するというもの。この地でしか再現できない、本物の色をゲストに伝えています。



L19: Restaurant

レセプションデスク裏のストリングアートは、鹿児島県の伝統工芸である大島紬。製造過程で地糸と紺糸がダイヤモンド形に束ねられる構造体を、そのままアートに昇華しました。レストランの名称である「Flying Hog Grill」をインスピレーションに、鹿児島県の伝統工芸・竹細工による子豚さんや、西郷柄をまとった豚さんママ、薩摩焼、木彫など、この地の土・素材から生まれた作品が並びます。



Suites

ダイニングエリアで目を引くブラウンの作品は、薩摩焼の絵付けで用いられる技法・文様で描かれた、鹿児島在住のアーティストによる作品。ベッドルームには、薩摩軽石を配置し、目の前に広がる桜島と内部が繋がる空間を作りました。

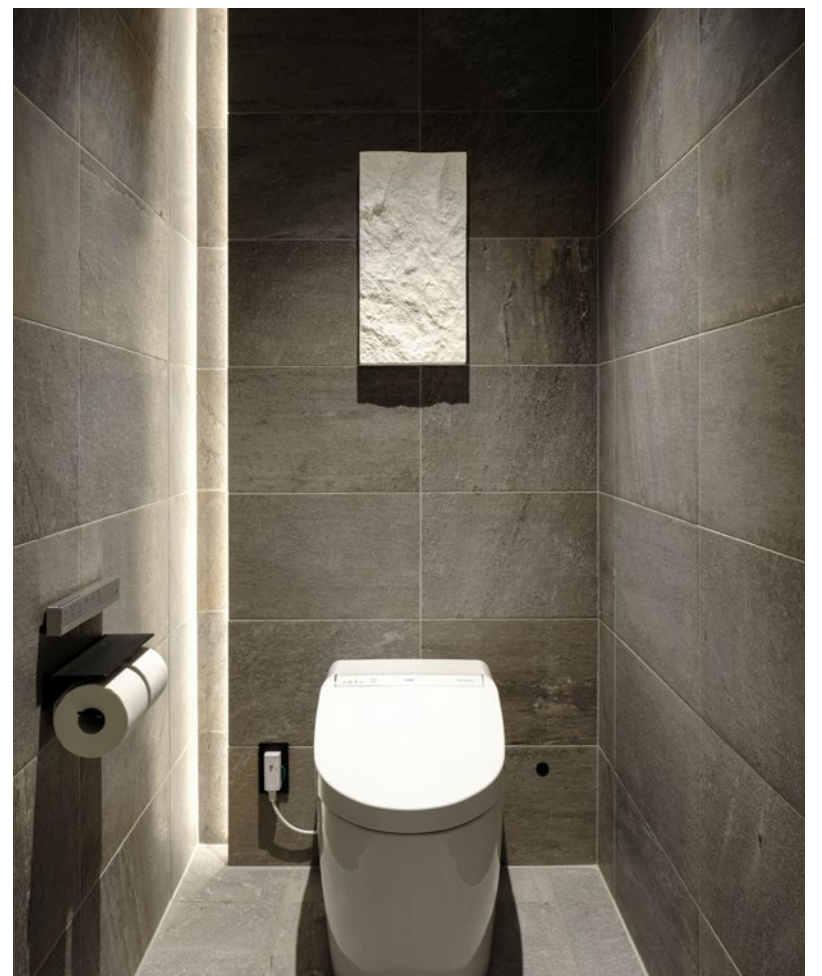


Executive Suites



Guest Room

「川内川あらし」と呼ばれる雲海の情景をベッドルームに。シラス台地の凹凸をそのまま立体化したものをトイレに。この地に宿る刹那の美と普遍的な美をフレアとしてゲストへ紹介しています。



Lift Lobby

鹿児島伝統工芸である錫を用い、火山灰が舞う情景を各フロアで全く異なる文様で表現しました。ゲストルームへ続く廊下には、その火山灰が海・山・陸へ積み重なる情景を光壁に描いています。



ICA

Interculture Art Inc.

ICA Bldg. 4F, 560-2 Waseda-Tsurumakicho,
Shinjuku-ku, Tokyo 162-0041

t: +81(0)3-3207-3911

e: contact@intercultureart.com

intercultureart.com

©Interculture Art Inc.